

3分野ごとの言語活動別の目標

資料5

レベル	学習時間 ^[※1]	留学分野における言語活動ごとの目標 ^[※2]				
		言語活動共通				
		聞くこと	読むこと	話すこと (会話)	話すこと (発表)	書くこと
必須の設定レベル	A1 100～150時間 134～200 単位時間	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。				
		当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。 短い簡単な説明なら理解できる。	非常に短い簡単な文を、身近な名前、単語や基本的な表現を一つずつ取り上げて、必要であれば読み直したりしながら、一文一節ずつ理解することができる。	簡単な質問を聞いたり、答えたりすることができる。直接必要なこと、もしくはごく身近な話題についての簡単なことを、自分から言ったり、相手の言ったことに反応できる。	人物や場所について、単純な字句を並べて、述べることができる。 自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べるができる。	簡単な表現や文を単独に書くことができる。 自分自身について、どこに住んでいるか、何をやる人なのかについて、簡単な句や文を書くことができる。
	A2 100～150時間 134～200 単位時間	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。				
		短い、はっきりとした、簡単なメッセージやアナウンスの要点は聞き取れる。ゆっくりと、はっきりと話されれば、身近な話題の会話はおこなった分かる。	非常によく用いられる、具体的で身近な内容の短い簡単な文が理解できる。 短い手紙やメールが理解できる。 日常の看板や掲示を理解することができる。	あまり苦労しなくても日常での簡単なやり取りができる。 招待や提案、謝罪をすることができ、またそれらに応じることができる。 他の人の意見に賛成や反対ができる。	人物や日常生活、日課、好き嫌いなどについて、単純な記述やプレゼンテーションができる。 その際簡単な字句や文を並べる。	自分の周りにある日々のいろいろな側面、例えば、人物、場所、学習体験などについて、つながりのある文を書くことができる。
B1 150～220時間 200～294 単位時間	仕事、学校、娯楽でふだん出会うような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。					
	学校、余暇などの場面で普段出会う、ごく身近な事柄について、共通語で明瞭に話されたものなら要点を理解できる。 話が共通語で、発音もはっきりとしていれば、自分の周りの長い議論の要点を理解できる。	簡潔な事実関係の文で、自分の専門分野や興味の範囲内ものは、十分に主題を理解できる。 個人の手紙を読んで、出来事、感情、希望の表現を理解することができる。	共通語による言葉遣いははっきりとした発音であれば、事実に関する情報をやり取りしたり、指示を受けたり、実際的な問題の解決策を論じたりする、定例の公式の議論に参加することができる。	経験や出来事、将来の夢や希望などを語ることができる。 意見や計画に対する理由や説明を簡潔に話すことができる。 本や映画のあらすじを話し、感想や考えを発表できる。	短い別々になっている要素を一つの流れに結びつけ、自分の関心や及ぶ身近な話題について簡単な文章を書くことができる。 現実のことであれ想像上であれ、最近行った旅行や出来事を記述できる。	
B2 350～550時間 467～734 単位時間	進学を希望する専門分野の議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者とやり取りができるくらい流ちょうかつ自然である。					
	内容的にも言語的にも複雑な講義、話、報告、そのほかの学問的／専門的なプレゼンテーションの要点が理解できる。 たいていのテレビのニュースや時事問題の番組が理解できる。	適切な参考資料を選択して使いながら、さまざまな目的や文章の種類に合わせて、読むスピード、読み方を変えながら、独力でかなりのところまで読み解ける。 広汎な語彙力を持っているが、頻度の低い慣用句には手こずることもある。	学術的、もしくは余暇に関する幅広い話題について、流暢に、正確に、そして効果的に言葉を使うことができる。 考えと考えの間の関係をはっきりとさせることができる。 文法も正確で、その場にふさわしい丁寧さで、自然にコミュニケーションできる。	自分の関心のある分野に関連した、広範囲な話題について、明確かつ詳細に記述、プレゼンテーションができる。 時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	いろいろな情報や議論をまとめて評価した上で、自分の関心がある専門分野の多様な話題について明瞭で詳細な文章を書くことができる。	
任意の設定レベル	C1 350～550時間 467～734 単位時間	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。				
		抽象的で複雑、かつ未知の話題でも、グループ討議やディベートでの第三者間の複雑な話し合いを容易に理解できる。 相当数の俗語や慣用表現のある映画が理解できる。	社会、専門、学問の分野で出会う可能性のある、ある程度長い、複雑なテキストを詳細な点まで理解できる。 意見表明だけでなく、含意された意見や立場も含めて詳細な点まで理解できる。	説得力をもって公式に主張を展開でき、質問やコメントに応じ、複雑な筋立ての対抗意見にも、流暢に自然に適切に応えることができる。 感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。	複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。 下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論にもっていくことができる。 聴衆からの不意の発言にも対応することができる。ほとんど苦労せずに自然に反応できる。	複雑な話題について、明瞭な構造で、きちんと記述し、重要な関連事項を強調しながら、書くことができる。 補助的な観点、理由、関連する事例を詳細に加えて、特定の視点からの論を展開し、ある程度の長さの文が書ける。

[※1] 1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について(報告)」p.64において示された学習時間の考え方で示された学習時間数。

[※2] 各レベルの目標は「日本語教育の参照枠(報告)」p.23-48「言語活動別の熟達度」、「活動Can do一覧」を参考に作成。

3分野ごとの言語活動別の目標

資料5

レベル	学習時間 ^[※1]	就労分野における言語活動ごとの目標 ^[※2]				
		言語活動共通				
		聞くこと	読むこと	話すこと (会話)	話すこと (発表)	書くこと
必須の設定レベル	A1 100～150時間 134～200 単位時間	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。				
		当人に向かって、非常にゆっくりと気をつけて発音されれば、あいさつや簡単な指示を理解することができる。	日常によくある短い簡単な表記であれば、イラストや写真などの視覚的補助や、場面から推測して読むことができる。 馴染みのある固有名詞、単語や基本的な表現を部分的に理解することができる。	職場内のいつも接している相手とゆっくりとした繰り返し、言い換え、言い直しをしながらであれば、簡単なやりとり(あいさつ)、簡単な質疑応答(自己紹介や身近な話題について)をすることができる。	あらかじめ準備していれば、あいさつや自分の名前や所属などの簡単な情報を言うことができる。	自分の名前や所属などの基本的な事柄や、あいさつなどの定型表現ならば、平仮名といくつかのカタカナ、漢字を使って、書くことができる。
	A2 100～150時間 134～200 単位時間	ごく基本的な個人情報や業務に関する情報など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常業務についての情報交換に応じることができる。	非常にゆっくりと話されれば、職場の基本ルールや安全衛生(守らなくてはいけないこと)に関する語句や表現を理解することができる。(A2.1) ゆっくりと話されれば、日々の業務で行う決まった手続きや手順(日課、ルーティン)の語句や表現を理解することができる。(A2.2)	日常業務などの活動領域内でよく使われる語句で簡潔に書かれているものであれば、短い説明や指示(指示、危険警告など)を理解することができる。(A2.1) 職場内で日常的に使われる言葉で書かれているものであれば、確認や注文などの、短い一般的な様式の文書等を理解することができる。(A2.2)	(社内) 仕事上の簡単な情報交換で済む日常の話題ならば、コミュニケーションをとることができる。(A2.1) (社内) 担当者間ミーティング等の短いやりとりで、ときどき上司や同僚が助けてくれるならば、比較的容易に会話をすることができる。(A2.2) (社外) 非常に典型的な日常の話題ならば、自身の考えや情報を交換し、質問に答えることができる。(A2.2)	職場環境や日課などの日々の身近なことならば、簡単な語句や文を並べて単純な発表・報告をすることができる。(A2.1) 業務に直接関係のある事柄や物についてであれば、簡単な言葉や短い文を使って、説明することができる。(A2.2)
B1 150～220時間 200～294 単位時間	日常業務で出会うような話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。自分の業務に関係のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。	はっきりとした共通語の日本語で話されれば、部署内での作業指示や引継ぎ事項など、日々の話題の短い説明を理解することができる。(B1.1) はっきりとした共通語の日本語で話されれば、社内の仕事上の話題について、簡単な事実関係の情報を理解することができる。(B1.2)	簡潔に事実等に基づいて書かれているものであれば、担当領域や業務の範囲内の、指示書や申し送り事項などは十分に理解することができる。(B1.1) 業務上の課題遂行のために、マニュアルや関連資料やメールなどにざっと目を通し、業務に必要な情報を収集することができる。(B1.2)	(社内外) 仕事に関連のある身近な事柄や一般的なニュースの話題ならば、個人的な意見を表明したり、情報を交換したりすることができる。(B1.1) (社内外) 担当領域に関連したことであれば、解決すべき事柄について話し合いをすることができる。情報を交換したりチェックしたり、確認したりすることができる。(B1.2)	説明すべき事柄を順序だてて、比較的流暢に、簡単な発表や報告をすることができる。(B1.1) 聞き手が理解しやすいよう、要点を選んで話すことができる。また、容易に推測できる質問には対応することができる。また、想定できる様々な質問に対応することができない。(B1.2)	日々の業務など広く自身と関わりのある事柄ならば、平仮名、カタカナ、漢字を使い分けて、標準的な形式を模倣しながら、短い報告文やメール文を書くことができる。(B1.1) 担当領域の事柄についてならば、表記上のルールに留意して、自身の調べた情報や事実を、意見を交えながら整理して報告することができる。(B1.2)

[※1] 1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について(報告)」p.64が示す学習時間数(B2まで)。
[※2] A1～B2レベルの目標は「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」(厚生労働省)、「就労場面における日本語能力:参照表」p.11、C1レベルの目標は「日本語教育の参照枠(報告)」、「言語活動別の熟達度」p.23、「活動Can do一覧」p.24-48を参考に作成。

レベル	学習時間 ^[※1]	就労分野における言語活動ごとの目標 ^[※2]					
		言語活動共通					
		聞くこと	読むこと	話すこと		書くこと	
任意の設定レベル	B2 350～550時間 467～734 単位時間	自分の担当業務の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者となり取り取りができるくらい流ちょうかつ自然である。	共通語の日本語で話されれば、社内で行われる議論等で、担当領域の議論の流れを理解することができる。(B2.1) 共通語の日本語で特殊な慣用表現などが使われていなければ、スピーチ、講演、顧客による説明などを理解することができる。自社や競合他社のニュースを聞いて理解することができる。(B2.2)	担当領域の文書や記事やメールを、独力でだいたい読み解くことができる(広汎な語彙力を持っているが、頻度の低い慣用語にはいくらか手こずることもある)。(B2.1) 専門領域の書籍や論文等から、比較的長い文章を理解し、必要な情報や論点を読み取ることができる。(B2.2)	(社内外) 相手に、一般的な事柄について、ストレスを感じさせることなく、流暢に会話することができる。重要なことを強調したり根拠を示したりして、自分の考えをはっきりと説明し、主張することができる。(B2.1) (社内外) 担当領域から一般的なもので幅広い話題について、流暢に、正確に、効果的に言葉を用いて、言いたいことを概ね表現できる。その場にふさわしい丁寧さで、自然なコミュニケーションをとることができる。(B2.2)	担当領域に関連するテーマについて、多様な選択肢の利点や不利点を示しながら、自身の主張を明確に説明することができる。また、想定できる様々な質問にも対応することができる。(B2.1) 専門領域に関連するテーマについて、要点を適切に強調し、明確かつ体系的に展開でき、流暢に発表・報告をすることができる。内容の補足など、事前準備のない展開にも対応することができる。(B2.2)	担当領域に関する事柄ならば、詳細に書くことができる。自身の考えの根拠を示しながら説明する文章を書くことができる。(B2.1) 専門領域に関する事柄ならば、伝えたい、あるいは主張したい重要な点と補足事項のバランスを適切に考慮し、読み手が理解しやすいメール、レポート、プレゼン資料等を書くことができる。(B2.2)
		C1 350～550時間 467～734 単位時間	いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。	特に耳慣れない話し方をする話者の場合には、時々細部を確認しなければならない場合があるが、自分の専門領域外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも充分についていける。	もし難しい箇所を読み返すことができれば、それが自分の専門領域に関連していても、新しい機械や使用手順についての長い複雑な説明を細かいところまで理解できる。	自分の専門領域外の話題についての専門家による抽象的な、複雑な話を詳しく理解できる。ただ、馴染みのない話し方の場合は特に、時々詳細を確認する必要がある。感情表現、間接的な示唆、冗談などを交えて、社交上の目的に沿って、柔軟に、効果的に言葉を使うことができる。	複雑な話題について、明瞭かつ詳細な記述やプレゼンテーションができる。下位テーマをまとめたり、一定の要点を展開しながら、適当な結論にもっていくことができる。聴衆からの不意の発言にも対応することができる。ほとんど苦勞せずに自然に反応できる。

[※1] 1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について(報告)」p.64において示された学習時間の考え方で示された学習時間数。
[※2] A1～B2レベルの目標は「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」(厚生労働省)、「就労場面における日本語能力:参照表」p.11、C1レベルの目標は「日本語教育の参照枠(報告)」、「言語活動別の熟達度」p.23、「活動Can do一覧」p.24-48を参考に作成。

3分野ごとの言語活動別の目

資料5

レベル	学習時間 ^[※1]	生活分野における言語活動ごとの目標 ^[※2]				
		言語活動共通				
		聞くこと	読むこと	話すこと (会話)	話すこと (発表)	書くこと
必須の設定レベル	A1 100～150時間 134～200 単位時間	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や家族などを紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。				
		はっきりとゆっくり話してもらえれば、自分や家族など身近で具体的なものに関する聞き慣れたごく基本的な表現を聞き取れる。	掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中によく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	相手がゆっくり話し、また助け船を出してくれるなら、身近な話題についてのごく簡単な質問について、聞いたり答えたりできる。	どこに住んでいるか、また、知っている人たちについて、ごく簡単な言葉や文を使って話すことができる。	新年の挨拶などの短い簡単なメッセージや名前や住所などを書くことができる。
	A2 100～150時間 134～200 単位時間	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、居住地域、職業など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。				
自分や家族など身近な話題でよく使われる語彙や表現を理解することができる。短いはっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。		掲示やポスター、役所や学校からのお知らせの中の短い簡単な文なら理解できる。簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	身近な話題や活動についての短い簡単なやり取りができる。短い社交的なやり取りをすることができる。	家族、周囲の人々、居住地域などの身近な話題について、短い簡単な文を使って説明できる。	身近な事柄なら短いメモやメッセージを書くことができる。ごく簡単な個人的な手紙を書くことができる。	
B1 150～220時間 200～294 単位時間	日常生活で遭遇するような身近な話題について、共通語による話し方であれば、主要点を理解できる。日常生活で起こりそうな、大抵の事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、脈絡のある文章を作ることができる。経験、出来事、夢、希望などを説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。					
	日常生活における共通語での会話なら要点を理解することができる。ゆっくり、はっきりとしているなら、ラジオやテレビ番組の要点を理解することができる。	身近な話題や個人的に関心がある内容の文章なら理解できる。出来事、感情、希望が表現されている文章を理解できる。	日常生活において起こる大抵の状況に対応できる。日常生活に関することや個人的な関心事について、準備なしで会話に入ることができる。	経験や出来事、将来の夢や希望などを簡潔に語るることができる。意見や計画に対する理由や説明を簡潔に話すことができる。本や映画のあるすじを話し、感想や考えを発表できる。	身近で個人的に関心のある話題について、まとまりのある文章を書くことができる。経験や印象について書くことができる。	
任意の設定レベル	B2 350～550時間 467～734 単位時間	日常生活における具体的な話題でも、例えば社会問題のような抽象的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで熟達した日本語話者と流ちょうかつ自然なやり取りができる。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細な文章を作ることができ、様々な選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。				
		長い会話や複雑な議論を理解できる。たいていのテレビのニュースや時事問題の番組を理解できる。共通語の映画なら、大多数は理解できる。	筆者の姿勢や視点が出ている現代の問題についての記事(新聞の社説など)や報告書などが読める。	熟達した日本語話者と流ちょうで自然な会話ができる。身近な話題についての議論に積極的に参加し、自分の意見を正確に説明できる。	興味関心がある分野の幅広い話題について、明瞭で詳細な説明をすることができる。時事問題について、いろいろな可能性の長所、短所を示して自己の見方を説明できる。	興味関心がある幅広い話題について、一定の視点から明瞭で詳細な説明文を書くことができる。手紙やメールで、事件や体験について自分にとっての意義を中心に書くことができる。

[※1] 1単位時間は45分。「地域における日本語教育の在り方について(報告)」p.64において示された学習時間の考え方で示された学習時間数。

[※2] 各レベルの目標は「日本語教育の参照枠(報告)」p.23-48「言語活動別の熟達度」、「活動Can do一覧」を参考に作成。